

第1B（中）分科会 —教育課程に関する課題—

提案主題 9年間を見通した小中連携の教育活動における教頭の役割
—白杵南小学校・南中学校小中連携推進協議会の取り組みを通して—

司会者	白杵市立南中学校	伊 東 義 明
提言者	白杵市立豊洋中学校	平 野 賢 治
助言者	白杵市立白杵南小学校校長	相 原 誠 一
記録者	白杵市立下南小学校	後 藤 徳 一

1 協議の柱

- ・小規模校における9年間を見通した小中連携のあり方と教頭の役割

2 協議の実際

(1) 主な質問とその回答

- ・質問：連携している小学校と中学校との距離と、児童生徒の移動手段について。
- ・解答：1kmほどで、中学生は移動に自転車を利用している。
- ・質問：小1から中3までの共通のアンケートについて。
- ・解答：全国学力テストのアンケート内容を参考に作成している。小1は聞き取り形式で回答を得ている。

(2) 各グループでの討議内容

- ・小中の連携や発達段階を意識することで、各学校内で前後の学年との発達段階をより意識した指導をするようになった。
- ・教頭の役割として小中連携をすすめるためのリーダー育成があるが、自己申告シートを活用することにより効果的な取組ができる。
- ・小中で全教科とも9年間を見通した系統表及びカリキュラムを作成している。統一カリキュラムの編成作業そのものが、教職員の意識を高める研修になる。
- ・小中で学習のきまりや生活のきまりを統一している。中学校に進学した際の戸惑いが少なく、中1ギャップの解消に効果的である。
- ・小中相互の乗り入れ授業を実施している。小学校の丁寧な指導と中学校の専門性など、良い点を相互に生かすようにしている。
- ・小中の互見授業を実施しているが、空時間のない小学校教諭が中学校に出向く時間の確保が難しく、工夫が必要である。

3 指導助言

- ・小学校と中学校との一貫性のある教育にプラスして、小一小連携など近隣の学校との連携も密にしていかなければならない。
- ・学校運営協議会（コミュニティースクール）を基盤として小中連携を進めることは、地域とともにある学校を創ると同時に、学校が地域社会の信頼を得ることに繋がる。
- ・小中連携をより効果的なものにしていくには、小中連携の意義を教員一人一人が自覚して取組をすすめていくことが大切であり、そのためにもミドルリーダーの育成が重要となる。
- ・小中連携の取組と同時に、家庭や地域全体を巻き込んだ一体的な教育に取り組む必要がある。国の施策である学校運営協議会制度、学校評議員制度、学校評価制度等も同じ方向を指し示している。